

基本目標 8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	
提言	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の取り組みがビジネスに結びつくケースを想定し、その支援策として、国・県等の助成金のみならず、市の自主財源を充てる取り組みも検討されたい。 ●組合未加入問題は、これまでのような「世帯単位での加入」という方法は限界を迎えているのではないか。加入促進のための意識付けの啓発を続けると共に、新しい方法の構築を検討されたい。 ●基本目標11と連携し、「きちんと防災に取り組むまちづくり」を推進されたい。当地域は土砂災害及び水害が起こる地域である。近年極端な気象現象が起こりやすい気候の中で、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを「まちづくり委員会等」及び「自主防災組織」が取り組めるよう、市民協働環境部(ムスまちづくり推進課)と連携して進められたい。 ●地域おこし協力隊の活動はすばらしい。その協力隊員に触発された地域の住民が力を発揮できる形や土壌作りを構築されたい。
評価	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね評価できる。 ●中山間地域での地域経営は厳しいことも多いが、各地域も行政も頑張っていることを評価する。 ●10年が経過した「地域自治組織制度」の検証と、まちづくり委員会が関わる行政関連業務の見直しが必要。 ●中山間地域は、人口減少のために住民自治が厳しい状況になってきているのではないか。「地域おこし協力隊」の活動では解決できない課題がある。「地域活性化」と「住民自治」との根本的な違いを把握した上で、住民が減少しても成り立つ「地域自治」を構築されたい。
評価 ①	<p>「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題解決のための実行部隊の立ち上げと仕組みづくりに取り組んでいる点を評価する。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●田舎へ還ろう戦略事業は地区を選択して寄付を行うふるさと納税(20地区応援隊)を原資としているが、その納税金額が当初目標を大きく下回っている原因を明確にし、対応すること。
評価 ②	<p>「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね評価する。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「〇人移住した」という確認も必要と考える。

基本目標 8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	
評価 ③	「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前向きな姿勢 ● 自治振興センター所長会に検討プロジェクトを設置しての活動 ● 組合加入促進コーディネーターによる、加入促進活動。 ● 地域おこし協力隊の活動が、地域に力を与えている。 ● 「20地区応援隊」制度の開設・運営。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 組合未加入者対策は、災害時の共助体制や、自治会加入によるメリット(例えば、尾張旭市のポイント制度)を明確に打ち出す工夫が必要。 ● 飯田市ふるさと納税の地区指定「20地区応援隊」の取り組みにおける、「返礼は地区との絆」という概念は理解されにくい。地区独自の返礼制度を自由に考えられることも一案ではないか。 ● 「住民自治の課題」と地域おこしなどの「地域活性化」とは、共通部分はあるが、異なる部分も多い。地域を元気にしていただくだけではなく、地域自治の仕組みを構築していくことが極めて大切。
評価 ④	「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成の取り組みや要因分析をしっかりと行っている点は、概ね評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中山間地域は、人口減少のために住民自治が厳しい状況になってきているのではないかと。「地域おこし協力隊」の活動では解決できない課題がある。「地域活性化」と「住民自治」との根本的な違いを把握した上で、住民が減少しても成り立つ「地域自治」を構築されたい。 ● 地域自治組織に対して、市民の「満足度」・「疲弊度」を計測する仕組みを確立されたい。

基本目標9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する	
提言	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会の実現のためには、第6次飯田市男女共同参画推進計画に挙げられている具体的課題「2男性にとっての男女共同参画の推進」「6ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」が肝である。この課題の解決に向け、旧態依然として地域や家庭に残る女性の役割の払しょくのため、必要な環境の整備、意識づけのための学習や啓発活動に取り組まれない。 ●男女共同参画の意識づけは、道徳意識と同様、成長しながら自然に身につくことが重要である。保育園や幼稚園に通園し始めたころから、男女分け隔てない指導をしていくように関係機関に働きかけられたい。 ●多文化共生社会に向け、「やさしい日本語」の使用による意識疎通を基本としているが、災害時等の緊急時は対応に限界があるので「ピクトグラム」を用いた世界共通表示、視覚で認識出来る環境整備をされたい。
評価	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画に取り組んでいるか、なかなか進んでいないと思われる。 ●多様性を尊重する活動に消費生活をめぐる諸問題に対して取り組んでいることは評価できる。 ●「個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら交流する」ために他に取り組めることがあると考える。 ●各市民団体は地方自治を支える大きな力、その市民活動団体のパワーアップを戦略に取り入れたのは大いに評価する。
評価 ①	<p>「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主体的に市民活動をしようとする市民の支援、又市民が参画できるワークライフバランス等の取り組みは評価する。 ●「多様性を活かした地域づくり」の多様性には性別・年齢別・国籍・障害の有無など、色々な要素が含まれる。それらをすべて網羅して生かしていこうとする戦略の姿勢を評価する。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民活動を立ち上げようとする市民への支援の充実。 ●男女共同参画の取り組みがまだ不十分。(例えば市役所幹部職員の女性の比率や地域自治組織の女性役員の比率など。)
評価 ②	<p>「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現時点では指標は概ね妥当である。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この目標に対してこの進捗状況確認指標の項目が適切であるか疑問を感じる。新たにわかりやすい指標の検討。 ●飯田市の市民活動及び地域活動及び定義をきちんと明記しないと指標にはならない。 ●多文化共生社会の推進に向け、言語に対してのバリアフリー化も指標として必要ではないか。

<p>評価 ③</p>	<p>「取組は良かったか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男性にとっての男女共同参画の推進、また、問題を認識しながら「ワークライフバランス」を積極的に推進するように取り組んでいる点。 ●言語バリアフリーの推進・環境づくりとして、外国人の年齢や状況に応じた取り組みを始めた点。 ●市民活動団体等の活動を把握するため、ムトス飯田まちづくり推進委員会にコーディネート専門委員会が設置された点。また、市民活動団体等へアンケートを実施し、回答内容に基づいて市民団体パワーアップ、すなわち支援体制の検討が始まった点。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ムトス助成金を受けた団体が衰退している場合もあり、今後の活動を見守るうえで調査が必要。市民団体個々の問題点の洗い出しと対策。 ●「ワークライフバランス」の推進にあたっては、事業所任せにせず、「今後の方向性」に記載してあるように、行政の連携で積極的に取組みに対する働きかけが必要。
<p>評価 ④</p>	<p>「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会及び多文化共生社会の実現に向けた取組み、また市民活動を行いやすい環境づくり、それぞれへの取組みは時代の変化に対応している。 ●男女共同参画社会に向け、啓発活動の充実や、地域・職場における意識改革の重要性を認識し、地域活動や仕事における男女共同参画を推進しながら、仕事と生活の両立に重点を置いた点。 ●多文化共生社会の推進に向け、今後「やさしい日本語」を用いた対応を計画し普及を図ろうとする取組み。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会に向け、地域や家庭内における「女性はこうすべき」「こうあるべき」という意識が払しょくされるような取組みが必要。昨年の提言からの成果がなかなか見えない。 ●多文化共生社会推進への取組みが、市民は全市的な問題として捉えていない。市のグローバル化進展を謳われた上で、市民啓発も必要となってくるとされる。 ●市民活動団体へ具体的な支援が必要。

基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる	
提言	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境への取り組みが、飯田市としてのブランディング事業のメインとなるよう、検討されたい。またリニア駅周辺を環境モデル街区とするべく、エネルギーパーク化の可能性を検討されたい。 ●南信州広域連合のごみ焼却施設が、ガス化熔融炉からストーカ炉になったことで灯油の使用料がほとんどなくなり、低炭素化には貢献できている。その一方で、これまで容器包装リサイクル法でリサイクルしていたプラスチック類が、燃やすごみとされている現実があり、対策を講ずるべきである。 ●家庭用蓄電池の普及のために、初期投資を軽減する施策をさらに充実されたい。 ●太陽光発電機器システムの耐用年数が経過したものの後処理の方法を検討されたい。 ●小沢川の小水力発電事業は全国的に注目を浴びていることから、市内他地域に積極的に小水力発電事業を展開し、飯田市がパイオニア的な存在として、全国のモデルとなる取り組みをされたい。 ●リニア中央新幹線工事の環境影響調査について、地下水・湧水・河川の汚濁、大気、騒音対策、希少動物の調査に加え、リニア事業の残発生土運搬ダンプ通過地域の生活環境対策に取り組まれたい。
評価	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「環境文化都市宣言」を行い、「21'いいだ環境プラン」・「環境モデル都市行動計画」に基づいて取り組んできた方向性は評価できる。
評価 ①	<p>「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね適正である ●地域環境権を行使した再生可能エネルギーの活用は、順調に進んでいる。 ●低炭素な社会の構築を目指した取り組みは的を射ている。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「より高い市民意識を醸成」し、「環境美化活動・自然環境保全活動」等の推進、と謳われているが、「不法投棄・ポイ捨て」に対処する取り組みが計画されていない。昨年度、議会から不法投棄に関する提言を行っている点を、しっかり受け止め、対応されたい。 ●市民レベルでの活動は見えているが、事業所の取り組みが不明である。事業所における省エネの取り組みや、地域における環境美化活動などの取り組みへの働きかけが必要。 ●これまではモラル的な面での取り組みであったが、今後はそれに加えて、環境をビジネスに活かす視点での取り組みも必要である。
評価 ②	<p>「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合戦略における重要業績評価指標(KPI)は、各項目で実績値が年々向上の傾向にある。 ●温室効果ガス削減量を指標とした点。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内の事業所が取り組んだ温室効果ガス削減量や、街や河川の美化活動実績など、環境改善を把握し、数値化されたい。

基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる	
評価 ③	<p>「取組は良かったか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域環境権の行使により、初めて水力発電事業で小沢川小水力発電事業を認定し、支援に取り組んだ点。 ●リニア中央新幹線の工事による環境影響を確認するため、影響する水源(井戸や河川等)の調査を開始した点。 ●ユネスコ・エコパーク登録、日本ジオパーク認定の南アルプスの保存活動を展開し、森と動植物を守る観点から南アルプスに対する活動を強化した点。 ●「南信州いいむす21」の改訂に向けた取り組みを、「地域ぐるみ環境ISO研究会」のプロジェクトに参画し、市民・事業者と共に進めた点。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「地域環境権」は、太陽光に偏り気味だが、再生可能エネルギー全般的な取り組みが大切である。 ●「環境意識を醸成する人づくり地域づくり」という点において、「不法投棄問題・ポイ捨て問題」は取り組まねばならない課題である。きちんとした取り組みを実施されたい。
評価 ④	<p>「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「環境文化」を都市間交流推進のツールと捉えた認識と方向性は評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●太陽光の取り組みが飯田市の特徴だったが、今後はそれのみに特化せず、再生可能エネルギー全般での幅広い分野での取り組みが必要である。 ●環境負荷はCO2だけの問題ではなく、不法投棄やごみのポイ捨ては、環境文化都市における「心の環境負荷」といえる。その対策を具現化できる戦略と取り組みが必要。

基本目標 1 1 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	
提言	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災に対し市民意識を高めることがとても重要であり、「防災もきちんと考えていくまちづくり」を推進されたい。当地域は土砂災害及び水害が起こる地域である。近年極端な気象現象が起こりやすい気候の中で、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを「まちづくり委員会等」及び「自主防災組織」が取り組めるよう、市民協働環境部(ムトスマちづくり推進課)と連携して進められたい。 ●「防災もきちんと考えていくまちづくり」のためには、各地区の自主防災会の組織力等の向上や防災訓練の内容のさらなる充実が不可欠であり、市民への啓発活動も含めて現行の戦略の拡大を図られたい。 併せて、消防団員以外の地域住民も予防消防についての必要な知識・技能を身に付けてもらう機会の創出の検討も進められたい。 ●災害抑止として独居高齢者宅等の家具転倒防止設備について地域の協力を得ながら設置を進めるとともに、住宅の耐震診断の実施の有無の調査も実施されたい。 ●災害時の避難に関する情報等の確実な伝達を行うため、情報入手手段の1つとして防災ラジオ(携帯ラジオ)の配布、また災害時に受信できるコミュニティエフエム放送ではなく、日常的に受信が可能となるようにコミュニティエフエム放送の中継局の新設などを検討されたい。また、緊急時には市民に情報が自動的に届くような仕組みの充実を願いたい。 ●消防団員の優遇措置として、努力に報いる報奨制度の設置が実行あるものとなるよう検討されたい。 ●消防団員確保は、現状を踏まえ更なる強化をすべき。 消防力の観点としては、機器の高性能化と整備の充実が進んでいる。。その点も含め消防団員の定数見直し及び消防力・整備の考え方の検討を進められたい。 ●災害時にも都市機能が維持できる社会基盤の整備は防災の観点だけでなく、「長寿命化計画」や「基本目標12リニア時代を支える都市基盤を整備する」などにも関連する。 目指すまちの姿の実現に向けて、その点の整理をし、次の「中期」の目標をつくられたい。
評価	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「戦略」及び「ねらい」のとおり進められている。市民の防災意識を更に高めることが求められる。 ●市民の生命財産を守ることは行政の第1の目標として位置づけ活動していることを評価する。 ●総合的に見てしっかりできている。今後は防災行政無線の計画的な更新に心がけてほしい。

<p>評価 ①</p>	<p>「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最近の異常気象ではいつ、どんな災害が起こるかわからない時代。防災・減災のまちづくりに取り組む戦略は適正である。また市民半数が防災訓練に参加している点は評価できる。 ●情報伝達体制の強靱化への取り組み及び災害時における情報伝達に視点を当てていることは評価できる。 ●各地域で自主防災組織が機能し、活動できるよう支援を行っている。 ●過去の災害事例を教訓にした防災・減災の取り組みがなされている点は評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●近年の急激な気候変動による短時間での強い雨やそれに伴う急な出水は、現在の排水路(特に農業用水路)では、処理できない箇所が見受けられることから、地域からの要望の有無に関わらず適宜改修を行っていく必要がある。
<p>評価 ②</p>	<p>「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練も地域に定着し、参加する市民の人数が増加していること。 ●社会基盤整備を計画的に行っており、特に進捗状況確認指標「長寿命化計画で緊急輸送路関連橋りょうの修繕工事完了数は順調に推移しており、評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●進捗状況確認指標として、防災訓練の参加市民数もいいが、そろそろ量から質の活動評価につながる指標もあってもよいのではないか。

<p>評価 ③</p>	<p>「取組は良かったか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 独居高齢者宅への家具転倒防止設備等の設置状況の個別訪問が約360戸行われ、しっかり調査し、今後も継続して行うという点。また高齢者の集会等への交通安全講話の実施や交通少年団が広報、地域の安全安心に関する啓発活動を行っていることは評価できる。 ● 自主防災会を中心とした各種訓練や職員を対象とした訓練・災害即応態勢の充実などよく行われている。 ● 消防団員の確保について、各分団が広報活動に努めている点。 ● 河川自然災害工事5ヶ所、集中豪雨危険個所の解消として、排水路整備事業15ヶ所の工事を完了したこと。 ● 妙琴浄水場更新整備については、計画通り事業が進捗していることは評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消防団の新入団員の確保が難しくなる中、退団者(満了・中途)の内訳を整理し、特に中途退団者の理由を分析したうえで退団者をいかに減らすかという取り組みが大切であり、そのためにも知恵と工夫を凝らすべきと考える。 ● 市民の防災意識を高めることは重要であり、ハザードマップの更新も含めて更なる啓発活動を行われない。また、地域ごとにばらつきがあると思わる自主防災活動の充実に向けてスケジュール化が必要ではないか。 ● 民間企業の社屋等建築物の耐震化状況の把握が必要ではないか。 ● 土砂災害特別警戒区域の住民への伝達方法について、実際に発表されたときに確実に伝達できたか検証すべきである。
<p>評価 ④</p>	<p>「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会問題化している高齢者交通事故抑止のために、高齢者集会等での交通安全講習実施や啓発活動が行われていることについて評価する。 ● 地域防災力の向上を目的とした自主防災リーダー養成研修会において学習機会の醸成を図ろうとしていることは、新たな知見を学び、予測不能の災害に備えた態勢が出来つつあり、避難所の開設訓練を通じて各地域で自主防災組織が期のしてきている点。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害が発生しそうな状況において、市民自らが気象情報や天竜川・遠山川の水位などの情報を取得できる方法を伝える。 ● 社会基盤整備は予算の課題が有るが、その計画を情報公開して市民と共有する。 ● 地震災害に対応した自主防災の避難所開設や避難者確認等の訓練の検討。